

NTK てっこう長野 Vol.33

2018 年 1 月

製作: 長野県鐵構事業協同組合
E-mail: jim2014@na-tetsu.jp

TEL.026-228-5748
FAX.026-228-0590



『中信支部 (株)高山製作所 社長 高山佳和氏 提供』

理事長挨拶	2
顧問県議と懇談会	3
組合員だより (北信支部)	8
理事会・委員会だより	9
青年部会だより『三県交流会について』	10
平成29年度前期技能検定『構造物鉄工』『とび』合格率	11
工場認定申請状況／JASS6改定講習会に伴う「鉄骨製作基準マニュアル集」の勉強会／	
組合員の動き	12
品質管理責任者の管理技術者との兼務解消に関するお願い (Mグレードについて)	13
鋼材識別表示の統一について	14
組合からのお知らせ	14
編集にあたって／表紙のことば	15

理事長あいさつ



新年のご挨拶



長野県鐵構事業協同組合
理事長 山邊 正重

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

さて、昨年は衆議院議員選挙の投開票が行われ、第4次安倍内閣が発足し、第98代首相となった安倍総理は「生産革命」・「人づくり革命」を車の車輪として少子高齢化の壁に立ち向かうと語りました。大幅な人口減少が推測される中、我々の業界も次世代を担う若者が働きやすい労働環境づくりの推進が必須です。

責務である安全・安心で良質な建築鉄骨を供給することは、傘下でもあります(一)全国鐵工工業協会の下、性能評価の大臣認定取得、鋼材のトレーサビリティの明確化を促し、また、部材取り違いによる事故発生を予防するための鋼材識別表示の統一化、また景気の変動を直接受ける我が業界は、どのような環境下でも発展維持できる体制を確立するための企業経営に必須の事項の理解取得のための経営力向上研修会と様々な取り組みをしています。また構成員企業の業績等アンケート(働き方改革に関する問いの追加)の実施にも協力しております。

全構協をととして鉄骨建設業協会との共同陳

情も行っており設計事務所及びゼネコン等に要望を提出し、回答を得たり、技術の研鑽のため多種資格取得のための講習会を実施して、技術・技能の資質向上の人材育成や、今後はIoTやAI、BIM等と技術革新が進んでいく時代の流れに、やがて迎える少子高齢化の時代を鑑みながらこの業界の発展を期待します。組合員一丸となり信頼される製品の製作に努めていきたいと思います。今年は犬年、WE are ONE(ワン)の精神でがんばりましょう。

本年も各界のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

最後に皆様方のご健勝をご祈念申し上げます。



顧問県議と行政との懇談会



1 月 2 5 日（木）に例年同様「ホテル国際 2 1」にて開催されました。今年度は北信支部担当顧問 長野県議会議員 風間辰一様にご欠席でしたが、他長野県議会議員 古田芙士様、萩原清様、平野成基様にご出席をいただき、県建設部より建築技監兼建築住宅課長 岩田隆広様、施設課長 荒城功次様、施設課企画幹兼建築住宅課主任専門指導員 塩入一臣様のご出席を賜りました。懇談会の後、理事及び運営委員の参加をいただいて新年会を開催し、風間顧問にもご臨席いただきました。



今年度の議題は下記の 5 項目です。

- ① 建設業許可区分での『建築鉄骨工事業』の新設独立について
- ② 平成 30 年度の県発注物件について
- ③ リニア新幹線事業の動向について
- ④ 「働き方改革」における土日の現場休場の要望と実施状況
- ⑤ 業界の現況にて・・・大熊稔氏（鋼構造出版(株)ジャーナル 編集長）

懇談会の内容は以下のとおりです。

①建設業許可区分での『建築鉄骨工事業』の新設独立について

・西澤理事より説明いただきました。全構協において業種名称等検討委員会が立ち上がり当県の山邊理事長も委員に委嘱されました。

結果は建築鉄骨を広く世に知ってほしい目的があり、鋼構造物工事業というもの

顧問県議との懇談会・・・



は何をつくっているか若い人にはわからないということで要望をだしましたが、鉄建協のコンセンサスが得れないということがありまして、今後、我々は独立の統一名称を目的とし努力していきたい。

②平成30年度の県発注物件について

- ・赤羽副理事長より耐震工事もひととおり終了したようで公共物件が少ない現況ですが、性能評価のグレードを物件にみあった適正グレードで発注していただきたいことをお願いします。
- ・建設部より近年の発注物件を確認しましたところご指摘のとおり同規模同士のものであってもバラツキがあるので適正に発注していきたい。

来年度の発注物件ですが、大型物件の県立武道館につきましては先週の金曜日に工事の入札の公告をいたしました。ただ、大規模の工事ということで入札の手続きに時間を要す等で実際の着工は7月初旬です。その他は信濃美術館です。これは基本設計をしている段階で実際の設計は来年9月までかけて設計していくということです。実際の着工は来年度末平成31年3月末です。2年ほどかけて工事がおこなわれます。

耐震工事につきましては、第1期は27年度までで終了しており、第2期が28年度から補強の割り増しをすることで今年度末から具体的な工事

をすることになっており、佐久と松本と北信の合同庁舎の工事があります。他は東御清翔高等学校の小体育館があります。以上です。

③リニア新幹線事業の動向について

- ・県より直接の担当部署ではないので不案内があると思います。

現在のところ契約で概ね5割程度と伺っております。県内につきましても全体で同様に53キロ弱ですが25キロ弱が契約済である。

飯田建設事務所管内の建築確認の数ですが年間件数は今のところ変化はみられない。

開通で東京品川まで45分でつながるということで効果の大きい事業であり、工事費も大きいということです。

- ・宮下理事より現在高速バスで東京まで4時間程度かかり料金的には高速バスで4200円リニアだと7500円位だと聞いていますが教えてください。
- ・県より上記のとおりで時間と費用を考えますと交通環境は改善されるのではないかと思います。
- ・宮下理事よりそういった意味では非常に利用価値が高いのではと思います。産業振興も期待しています。企業誘致につきましても南北格差をなくす起爆剤と思っておりますのでよろしくお願いします。
- ・古田顧問県議より二次交通の道路整備も検討中で、駅前広場7haについてもスポーツアリーナ、コンベンショ

顧問県議との懇談会・・・



ンホール等検討している。旧飯田工業高校に航空宇宙産業ということで研究機関を検討している。それぞれの責任分野が明確になり動き出しているところです。

民間の建築工事にどう波及していくかが現実的な課題である。今後の方策を検討していきたい。

④「働き方改革」における土日の現場休場の要望と実施状況

- ・県より段階的に取り組みをしておりますが 27 年度からモデル工事を選択して実施、135 件発注して内 130 件で協力いただき建築関係では 7 件、望月高校渡り廊下等です。28 年度から週休 2 日を実施する企業に入札時に総合評価において加点をするとした。

県庁の入り口の天井の改修工事がモデルになっています。来年度からは県の発注する工事におきまして週休 2 日の達成度に応じて工事成績の加点を行うことを進めていきたい。この働き方改革におきましては持続的に担い手を確保、またさらに職場の魅力を高めて若い方の確保、また技術を繋いでいく大きな事柄だと考えています。引き続きしっかり取り組んで参ります。

- ・一ノ瀬副理事長より県の発注物件は守られているようである。実際にプレミアムサタデーの話は全くない。我々は GC から仕事を請けている以上 GC がしっかりとした認識がないと、我々は実施できないのが実情である。
- ・県より土木関係は浸透しているが、

⑤業界の現況について

- ・西澤理事より全構協関東支部実質年間生産高の調査結果の報告をしてもらいました。27 年度及び 28 年度の調査結果報告から当県は他県の仕事をかなりしていることがわかり、税収面でも貴重な業種です。関東支部 1 都 9 県は全国の 20% 程度製作していることがわかります。

関東支部 1 都 9 県鉄骨生産高調査 結果報告・・・PDF

- ・ジャーナル編集長 大熊稔氏より
配布の講演資料に基づき話します。
1973 年第 1 次オイルショックで鉄骨需要が激減し、第 2 次オイルショックが 1979 年おきて、また鉄骨需要量が落ち込むがその後バブル景気がきてまた右肩あがり需要が増えていきます。折れ線グラフのピーク時 1990 年度、当時の鉄骨需要量は 1230 万トンありました。今 500 万トンと比べると倍以上あったわけです。
バブル崩壊とともに右肩下がりで需要量は減っていきます。
1996 年度に需要量があがっているのは 1995 年の阪神大震災の復興需要で上がっていききました。1998 年から約 10 年間 700 万トン時代で安定して

顧問県議との懇談会・・・



いた。これは後進国の経済発展で鋼材が不足しました。その後リーマンショックにより 2009 年度 400 万トン割れとなり 42 年ぶりで建築鉄骨の需要が落ち込んでいく状況となった。

2013 年度の上りは消費税の駆け込みで需要増となっております。

2012 年この業界の需給的バランスを全構協で調査を実施、当時この業界の生産能力 610 万トン (橋梁等部材含む) であった。550 万トンが需給バランスが取れている状態である。直近の話では 550 万トンはいくのではないかと思う。業界の問題として構造的な都市化率の問題 (東京に集中し

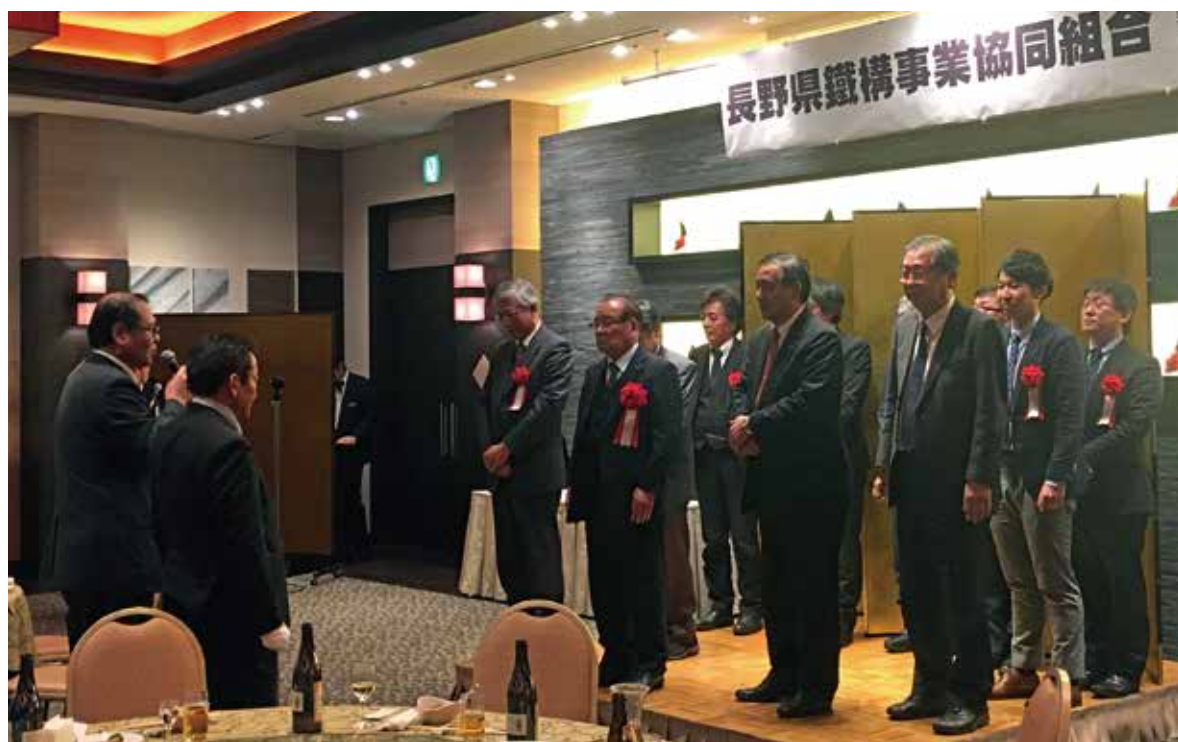
た仕事量) と生産人口が減少している状況を考えると 600 万トンを上限値としてよほどのことがない限り上回らないと指摘されています。

この先 2020 年の東京五輪特需において周辺開発、店舗等で東京は建設ブームでありオリンピック後は減るのではと懸念されるが東京五輪後も 2 ～ 3 年は仕事量は見えています。ただ地方の需要と中小物件の今後の需要がみえない。業界の姿勢は今後利益重視型という体質に変わっている。

鉄骨需要量と全構協構成員数の推移
・・・PDF



顧問県議との懇談会・・・



組合員だより



北信支部組合員だより



トライアン株式会社
企画業務室
室長 村石 雅之

【落語と私】

日々、過酷な業務をこなしている私は、時々不安で寝付けない夜があります。そんな時、私は決まって落語を聞きます。ご存知の通り落語は、歌舞伎など、ほかの伝統芸能と違い、身振りと手振りのみで噺を進め、一人何役をも演じます。衣装や舞台装置なども使わず、演者の技巧と聴き手の想像力で噺の世界が広がっていく、とてもシンプルで身近な芸能です。そして噺の最後に「オチ」が付くのが特徴です。

個人的な見解ですが、落語の良い所は耳だけでその物語全てを想像し堪能する事が出来る事だと思います。就寝前に床に入り、目を閉じて落語を聞き出すと、一変に落語の世界に引き込まれます。そしてその世界の中に自分独自の想像が加えられます。落語の主人公は自分。そしてその主人公が惚れた女の人や自分の好みの女性タレントを思い浮かべたりします。そのうちに、不安な心情の事など全て忘れ、落語の世界にどっぷり漬かり始

めた頃、最後の「オチ」を聞くまでもなく、今度は夢の世界に引き込まれます。ちなみにこれが、今回の「オチ」であります…(笑)

さて、我々鉄鋼業界の仕事は鍛冶屋と呼ばれる事があります。鍛冶屋を辞書で引くと、「金属をきたえ、加工して器物を作ることを職業とする人。また、その家」とあるので、我々の業界はまさしく鍛冶屋です。その昔の鍛冶屋といえば、刃物や農機具を作るにあたり、金属を熱し、叩いて整形する。ある種日本の伝統技術でありました。

その鍛冶屋、落語の世界でもしばしば登場します。その中で「紀州」という演目があります。かいつまむと、徳川家次期將軍の座を尾州侯と紀州侯で争っていた時、尾州侯が登城する際、遠くから鍛冶屋が槌を打つ音が聞こえてきます。「トンテンカン、トンテンカン…」と…その音を尾州侯が「テンカトル、テンカトル…」「天下取る、天下取る」と聞こえたという話です。

我々鍛冶屋にとっては非常に縁起の良い噺で、私もこの仕事をするようになってから好きになった演目です。あえてここでは「オチ」は伝えませんので、是非一度聞いてみてください。

鉄構業界が「天下取る」そんな意気込みを持って、日々邁進したいと思います。

お後がよろしいようで。

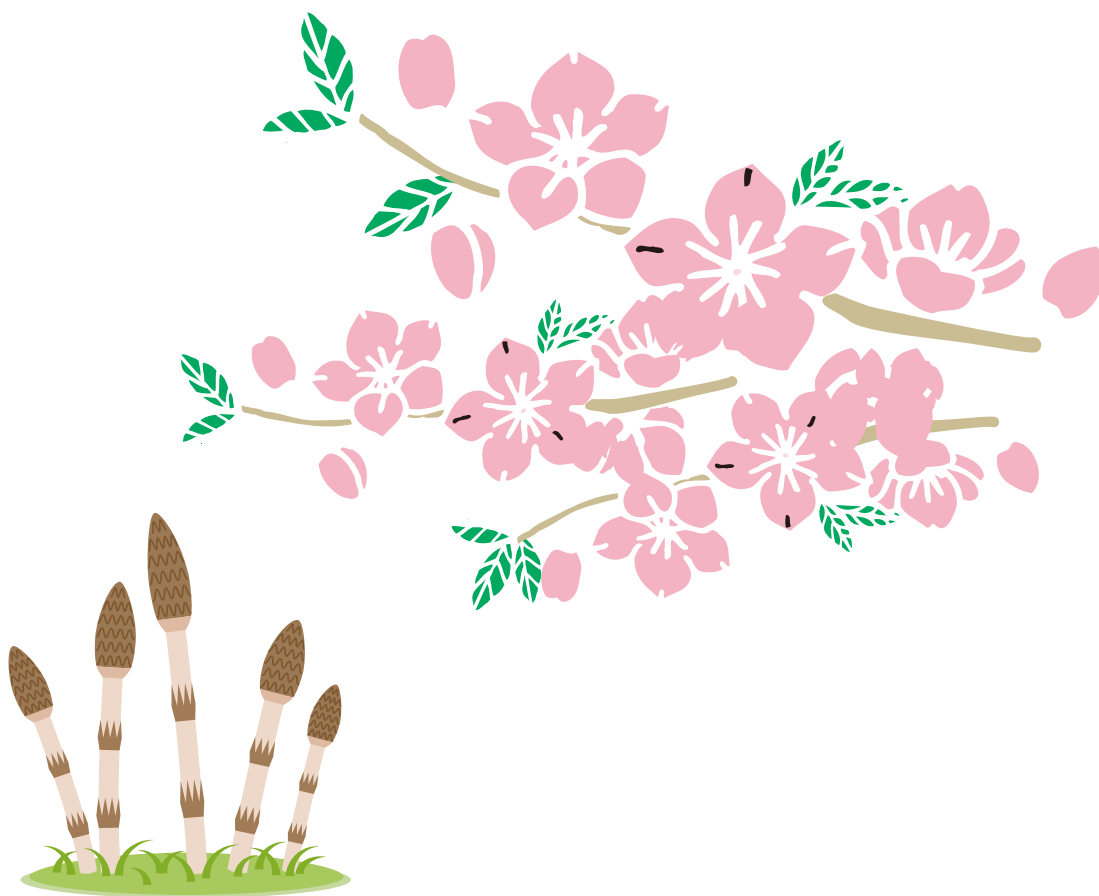
理事会、委員会だより



正副常任理事会、理事会、各委員会開催状況

(自平成 29 年 6 月 ~ 至現在分)

日時	会議名	場所
平成 29 年 7 月 20 日	第 1 回運営委員会	長野市「レストランやま」
〃 7 月 28 日	第 3 回理事会	松本市「翠香園」
〃 11 月 15 日	第 2 回運営委員会	長野市「組合事務所」
〃 11 月 22 日	第 1 回技術委員会	松本市「モニターニュ松本」
〃 12 月 4 日	第 1 回正副常任理事会	長野市「組合事務所」



青年部会だより



平成 29 年度「青年部会 三県（長野・栃木・群馬）交流会について」



長岡鉄工株式会社
専務取締役
長岡 拓馬

～管理職スピーチ力強化特別講座～

“声で人を動かせる
社員・部下をやる気にさせる
プラチナトーク！”

平成 29 年 11 月 18 日（土）に前橋テルサにて三県合同研修事業にて「～管理職スピーチ力強化特別講座～」というテーマにて FM 群馬アナウンサー 清水由美氏の講話をしていただきました。

部下との接し方、コミュニケーションの取り方、相手に対する態度による印象など色々な視点からの内容を話していただきました、講話では実践形式で参加型の内容で各県の代表者による対応などを実際に見て、聞いてとても分かりやすかったと思いました。

講話なので自分がもっとも大事だと思ったことは、「話す部下（相手）を日頃からよく見る、相手の事を想う」ということだと感じました。

私も事業主として部下を持ち、日頃からの接し方、又部下の事を知る、想うということに今後励んでいきたいと思う次第であります。



平成29年度前期技能検定『構造物鉄工』『とび』合格率

H29年度 前期 技能検定 試験結果

職種：鉄工 作業名：構造物鉄工作業 (下記表のPDF画像はこちら)

総合合格率						
職種/級	科目	合格者数 受験者数	合格率	前年度 との比較	H28年度 合格率	H27年度 合格率
1級	実技	8 / 17	47%	<	52%	36%
	学科	10 / 15	67%	>	52%	75%
	技能士	9 / 21	43%	>	39%	27%
2級	実技	14 / 25	56%	<	75%	54%
	学科	14 / 24	58%	<	70%	55%
	技能士	12 / 28	43%	<	62%	39%

講習会受講者合格率					
講習会 参加 合格者	講習会 参加者	合格率	前年度 との比較	H28年度 参加者 合格率	H27年度 参加者 合格率
4 / 11	現3/10	36%	<	53%	25%
7 / 8		88%	>	63%	86%
4 / 11		36%	<	41%	13%
11 / 18	現0/1	61%	>	50%	54%
11 / 16		69%	<	88%	90%
7 / 18		39%	<	60%	54%

講習会非受講者合格率					
非受講 合格者	非受講 参加者	合格率	前年度 との比較	H28年度 非受講 合格率	H27年度 非受講 合格率
4 / 6		67%	>	50%	50%
3 / 7		43%	<	47%	60%
5 / 9		56%	>	36%	50%
3 / 6		50%	<	100%	—
4 / 6		67%	>	60%	20%
5 / 9		56%	<	63%	20%

※講習会受講者には講習会当日欠席者も含む。

職種：とび 作業名：とび (下記表のPDF画像はこちら)

総合合格率						
職種/級	科目	合格者数 受験者数	合格率	前年度 との比較	H28年度 合格率	H27年度 合格率
1級	実技	35 / 49	71%	>	68%	82%
	学科	36 / 49	73%	=	73%	71%
	技能士	33 / 56	59%	>	58%	68%
2級	実技	4 / 5	80%	=	80%	71%
	学科	4 / 6	67%	>	60%	56%
	技能士	4 / 6	67%	>	60%	56%

講習会受講者合格率					
講習会 参加 合格者	講習会 参加者	合格率	前年度 との比較	H28年度 参加者 合格率	H27年度 参加者 合格率
28 / 37		76%	>	73%	86%
31 / 36		86%	>	76%	76%
29 / 42		69%	>	60%	70%
4 / 5		80%	<	100%	83%
3 / 4		75%	=	75%	63%
4 / 6		67%	<	75%	63%

講習会非受講者合格率					
非受講 合格者	非受講 参加者	合格率	前年度 との比較	H28年度 非受講 合格率	H27年度 非受講 合格率
7 / 12		58%	>	38%	57%
5 / 13		38%	<	50%	40%
4 / 14		29%	<	33%	50%
2 / 2		100%	>	0%	0%
1 / 2		50%	>	0%	0%
0 / 2		0%	=	0%	0%

※講習会受講者には講習会当日欠席者も含む。

工場認定申請及び予定状況

工場数 66 (内認定工場 46 / 未認定工場 20) (平成 30 年 1 月 1 日現在)

2017 年前期の認定申請工場は 4 社でした。

内訳 H…1 社 (M から昇格) M…2 社 R…1 社

2017 年中間の新規認定申請工場は無し。

2017 年後期の認定申請予定工場は 5 社です。

内訳 M…5 社

※ 11 月 22 日 (水) に松本市「ホテルモンターニュ松本」で、性能評価研修会を開催いたしました。当組合の元専務理事海野様に講師をしていただき、倉科委員長より鉄骨精度測定指針改訂について、また事務局より申請書の一部変更について説明しました。性能評価申請で不明な点がございましたらいつでも事務局までご連絡ください。

~~~~~性能評価申請書の内容の変更点~~~~~

- ① 新たに各工場の E-mail アドレス記入欄を設けた。
- ② 工場案内図に「分工場」の住所記入欄を設けた。地図にも分工場を表記していただきます。製造設備、検査設備の数量の詳細を「複数工場の同一単位工場申請書式」に記入していただきます。
- ③ 製作実績リストの下段に※ 2 として「この製作実績リストの中には「完全溶け込み溶接部を有する柱梁接合部がある製作実績」が最低 1 件必要です。が追加されています。
- ④ 申請書作成チェックリストの提出

### ◆◆◆「鉄骨製作工場の基準マニュアル集 (改訂版)」勉強会について◆◆◆

JASS6 改定講習会が全国で開催され全構協で作成している標記の基準マニュアル集もそれに伴い改訂版がでます。配布予定は平成 30 年 3 月上旬となっており、当組合として、この新しい基準マニュアル集の勉強会の開催を予定しております。日程等は未だ未定ですが、決まり次第組合員の皆様にご案内いたします。

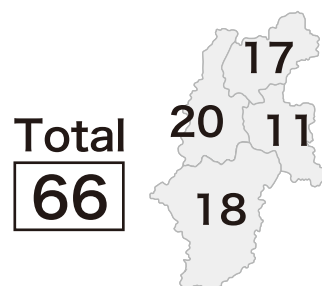
## 組合員の動き NOW

現在の組合員数は 66 社です。

|        |      |        |      |
|--------|------|--------|------|
| ■ 北信支部 | 17 社 | ■ 東信支部 | 11 社 |
| ■ 中信支部 | 20 社 | ■ 南信支部 | 18 社 |

平成 29 年度

カナエ鉄工有限会社 入会 (H29.10.1 ~)



## 品質管理責任者の管理技術者との兼務解消に関するお願い

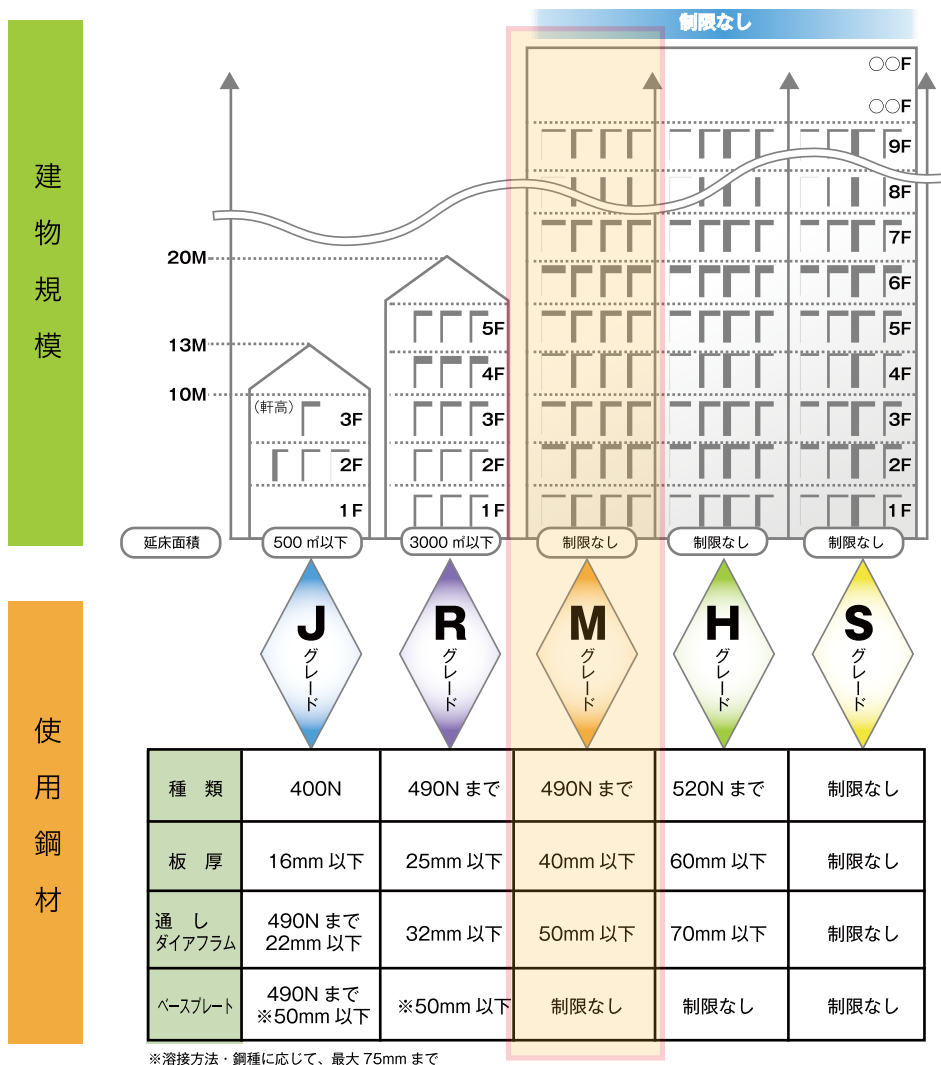
### M グレードについて

さて、標記の件につきましては、(株)全国鉄骨評価機構より既に各都道府県鉄構工業協会・組合事務局へ兼務解消の指導の話がきておりますことは皆様もご周知されていることと思います。兼務状態での申請受付期限が平成30年度までとなりましたのでここで再度ご案内いたします。

資料① 「品質管理責任者の兼務の取扱いに関するご指導のお願い (M グレードについて)」

資料② 「品質管理責任者の兼務の取扱いについてのお知らせ」

資料③ 内規3号「品質管理責任者の管理技術者との兼務の取扱いについて」



## 鋼材識別表示(塗色線表示)の統一について



鉄骨を製作する上で、設計図書に定められた材料の使用を厳守することは、品質確保の原点です。発注した鋼材が、切断などを施した加工部材の流過程や鉄骨製作工場での製作段階で、間違いなく取り扱われていることを確認するための方法として、「塗色線表示方式」が一般的に行われています。

この度、この方式による各社の塗色や表示方式が、現行の識別表示標準と必ずしも一致していないことが実態調査により明らかになり、このことが部材取り違いによる事故発生の恐れありと危惧されておりました。

全構協ではこの問題を重視し、一般社団法人日本鋼構造協会が本年7月に改正した「鋼材の識別表示標準」に基づき、鋼材識別表示の全国統一化を推進することに致しました。

「表示板」に掲載されている各団体は、統一化推進活動に賛同されている団体であります。

一般社団法人日本建築構造技術協会  
一般社団法人日本建設業連合会  
AW 検定協議会  
一般社団法人日本鉄鋼連盟  
一般社団法人日本溶接協会  
一般社団法人 CIW 検査業協会  
全国厚板シャリング工業組合  
一般社団法人鉄骨建設業協会  
一般社団法人全国鐵構工業協会

建築用鋼材の識別表示板 (SH 用) 及び (MRJ 用)

詳細な PDF は[こちらをクリック](#)

## 組合からのお知らせ

### ◇訃報◇

- (株)柳澤鐵工所社長のご母堂様 柳澤牧子様が7月18日、88歳でご逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。
- 昭和興業(株)社長のご令室様 山本とよ子様が8月21日、69歳にてご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げますとともにご冥福をお祈りいたします。
- 当組合の技能検定「とび」の検定員である富士見鉄工(株)社長 小林弘幸様のご尊父様 小林宗春様が9月20日、84歳にてご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 編集にあたって

今年の見通しもみなさまよろしいことかと存じます。設備投資についても活発に行われているのではないのでしょうか。2020年以降も大きな落ち込みはないとのことです。こういう時期でもあります、組合の大事な収入源でもある共同受注の協力費も減額をしましたのでご協力のほどよろしくお願いします。



総務委員長  
西澤 章

## 表紙のことば

1月26日に開催された「平成30年度長野県鐵構事業協同組合中信支部・アルプス鐵構事業協同組合 合同新年会」の写真です。当日は MA-VO ゴスペルライブの歌や青年部のビンゴ大会等で盛りあがっていました。

写真提供者

中信支部 (株)高山製作所 社長 高山佳和



# 安全・安心

建築鉄骨は品質保証の時代



当組合のNTKマークが安全・安心の目印です。

## 長野県鐵構事業協同組合

長野市若里7丁目11番8号 坂田ビル3F TEL 026-228-5748 FAX 026-228-0590